

**平成30年度主な実施内容及び今後の取組予定
馬淵川大規模水害に備えた減災対策協議会**

馬淵川大規模水害に備えた減災対策協議会 八戸市 平成30年度主な実施内容及び今後の取組予定

【平成30年度の主な実施内容】

- ▶ 新しい洪水浸水想定区域(想定最大規模)を反映した洪水ハザードマップの作成。【R元年度完成】
- ▶ 市ホームページに、要配慮者利用施設向けの周知用ページを作成。【H30年8月公開】
- ▶ 浸水想定区域(想定最大規模)に位置する要配慮者利用施設を抽出。八戸市地域防災計画に掲載。【H31年3月修正】
- ▶ 要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援に向け、防災、河川、施設所管課で構成する「庁内関係課連絡会」を開催。【H31年2月開催】
 - 作成支援に係る各課の役割分担の取り決め。施設から避難計画が提出された場合の対応マニュアルを作成。
 - 支援に係る今後のスケジュール、課題を確認、共有。



【要配慮者利用施設に係る庁内関係課連絡会の様子】

【令和元年度の主な取組み予定】

- ▶ 要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進

平成29年5月改正水防法により、洪水浸水想定区域内の要配慮者利用施設の管理者・所有者に義務付けられた避難確保計画の作成及び避難訓練の実施を促進するため、対象施設に対し、作成・提出方法等について、通知予定。

【対象要配慮者利用施設】

施設区分	対象数	施設区分	対象数	施設区分	対象数
医療施設	17	幼稚園	5	児童館	6
高齢者施設	23	保育所	2	放課後児童クラブ	21
助産所等	2	保育所型 認定こども園	4	小・中学校	23
介護保険施設	53	幼保連携型 認定こども園	19	高等学校	4
障害福祉施設	41	認可外保育施設	9	特別支援学校	2

計 231施設 (同一施設について区分上の重複あり)

- ▶ プッシュ型の洪水予報等の情報発信
 - 洪水浸水想定区域内の要配慮者利用施設の防災体制の強化に資するため、洪水予報等・避難情報等の直接伝達を計画。
 - 各施設の伝達先収集等経路構築を図り、配信訓練を経て、体制を確立する予定。

馬淵川大規模水害に備えた減災対策協議会 三戸町 平成30年度主な実施内容及び今後の取組予定

【平成30年度の主な実施内容】

○三戸町総合防災訓練を実施

実施日：平成30年10月28日（日）

参加人員：自衛隊、消防署員、消防団員、地域住民、町職員等 約300人

地域防災計画に基づき、防災関係機関及び民間協力団体並びに地域住民の参加連携のもと、大規模災害を想定した各種訓練を実施することにより、迅速かつ的確な災害応急対策を確立するとともに、地域住民の防災意識の高揚を図ることを目的に実施



避難誘導・応急救護訓練



土嚢制作訓練

○町広報誌及び町HPへの水防団（消防団）員募集記事を掲載

年度	団員数	前年比
平成29年度	445人	- 5人
平成30年度	448人	+ 3人
平成31年度	437人	-11人



【令和元年度の主な取組み予定】

○防災ハザードマップの作成

最新の想定最大規模の浸水想定区域等を反映したハザードマップの作成

新たに作成するマップは、洪水だけではなく、土砂、地震等を含めた防災ハザードマップとする予定



既存洪水ハザードマップ



既存地震防災マップ



南部町 平成30年度主な実施内容及び今後の取組予定

【平成30年度の主な実施内容】

○南部町防災訓練実施

実施日：平成30年10月28日(日)

参加者：自衛隊、消防署員、消防団員、自主防災組織、
社会福祉協議会、日赤奉仕団（ほか）
参加者総数 410名

訓練内容

水防訓練（土のうシート張り工法）
避難所開設訓練、避難誘導訓練、
炊き出し訓練、ほか



・災害時に必要となる物資の備蓄

土のう袋 4,000枚
備蓄用アルファ米 600食、カンパン240缶

・災害特設公衆電話の避難所への設置対応

設置対応避難所 26施設（電話機 10台購入）

○自主防災組織の立上げ及び育成

- ・新規立上げ組織へ発電機・サークルライトの配備 1団体
- ・防災資器材の整備へ助成金交付 1団体

○水防（消防）団員の募集

町広報誌及び町ホームページへ水防（消防）団員募集
記事掲載

【令和元年度の主な取組み予定】

○防災訓練等の各種訓練の実施

町防災訓練：令和元年10月20日（日）実施予定

○災害時に必要となる物資の備蓄

・土のう袋、備蓄用食料品等

○防災マップデータ修正

最新の想定最大規模の浸水想定
区域等を反映した防災マップへ
のデータ修正



○自主防災組織の支援及び育成

○水防（消防）団員の募集

・町広報誌及び町ホームページ等での呼びかけを行う

年度	人数(人)	前年度からの増減
平成29年度	674	-18
平成30年度	677	+3
平成31年度	679	+2

※各年度4月1日現在の水防団員数

五戸町 平成30年度主な実施内容及び今後の取組予定

【平成30年度の主な実施内容】

○町広報誌及び町HPにて水防団員（消防団員）募集の記事等を掲載
29年度 473名 30年度 461名（増減 △12名）

○自主防災組織の立ち上げ・育成事業
地域単位での自主防災組織を結成できるよう、講演会及び図上訓練体験等を実施



○水防工法訓練の実施
総合防災訓練において、住民対応による積土のう工法訓練を実施



【令和元年度の主な取組み予定】

○町広報誌及び町HPへ水防団員（消防団員）募集の記事等を掲載予定

○自主防災組織の立ち上げ・育成事業
地域単位での自主防災組織を結成できるよう、講演会及び図上訓練体験等を継続して実施予定

○土砂災害防災訓練の実施
総合防災訓練において、ハザードマップ等を活用した地区住民等による避難訓練を実施

○要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援
要配慮者利用施設の避難体制の強化を図るため、防災体制や訓練の実施に関する事項を定めた避難確保計画の作成を支援

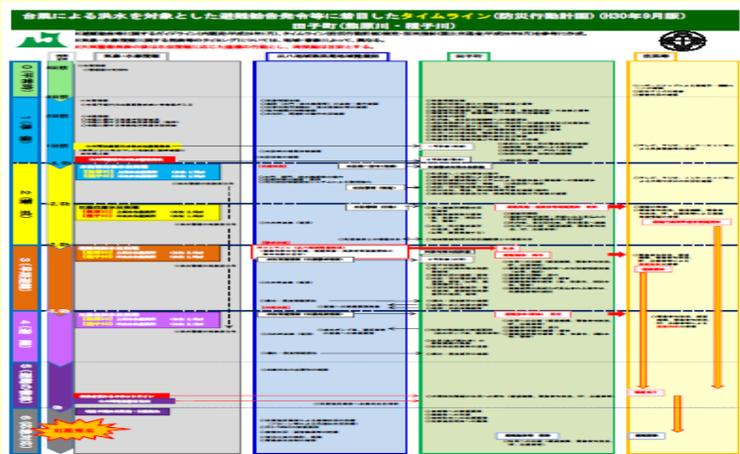


馬淵川大規模水害に備えた減災対策協議会 田子町 平成30年度主な実施内容及び今後の取組予定

【平成30年度の主な実施内容】

○洪水タイムラインの策定

青森県河川砂防課の事業として、町内の二河川（県管理河川）の洪水タイムラインを策定。
 今後は、訓練等を通じて避難勧告等発令の判断基準としての実用性を高めていく。



○町緊急告知放送（光ファイバ網による有線音声放送）

屋外放送設備の新設工事
 屋外放送設備2基の設置工事を実施。災害に関する各種情報の伝達手段の充実を図った。

【令和元年度の主な取組み予定】

○水害等を想定した訓練の実施

水害等を想定した図上訓練（避難勧告の発令、情報伝達・情報共有体制の確認等）や、町民参加による避難訓練を検討中。町民の水害に対する意識の高揚を図る。

○町緊急告知放送の屋外放送設備新設工事

屋外放送設備1基の新設工事を実施予定。難聴地区の解消を図る。

○水防団員（消防団員）の募集

団員の高齢化や被用者率の増加により団員確保が困難な状況であるため、団員確保対策の一環として広報誌やHPへ募集記事を掲載する。

年度	団員数	前年比
平成30年度	252	△1
平成31年度	240	△12

※各年4月1日現在（条例定数278名）

馬淵川大規模水害に備えた減災対策協議会 新郷村 平成30年度主な実施内容及び今後の取組予定

【平成30年度の主な実施内容】

○水防団(消防団)への加入呼びかけ。

年度	団員数	前年比
平成28年度	191	△2
平成29年度	194	+3
平成30年度	194	±0

○防災行政無線のデジタル化

屋外拡声子局14箇所を整備を行った。



○総合防災訓練の実施

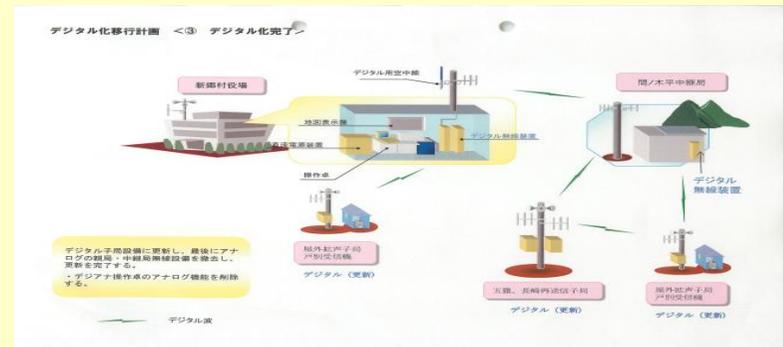


総合防災訓練において、土のうの作成及び土のう積み等の訓練を行った。

【令和元年度の主な取組み予定】

○防災行政無線のデジタル化推進

屋外拡声子局31箇所の整備を行う。



○水防団(消防団)の募集

団員の高齢化や被用者率の増加等により、団員の確保が困難となってきているため、村広報紙及びHP等を活用し、団員の確保に努める。

○防災計画等の見直し・作成

避難勧告等判断・伝達マニュアル等の見直し。
地域防災計画の更新・見直し。

馬淵川大規模水害に備えた減災対策協議会 青森県河川砂防課 平成30年度主な実施内容

【平成30年度の主な実施内容】

○危機管理型水位計の設置【完了】

- ・住民避難や水防活動に資する基盤整備として、危機管理型水位計を県管理河川82河川82基に設置完了
うち、馬淵川流域は土橋川(八戸市)及び小猿部川(三戸町)等4河川4箇所を設置

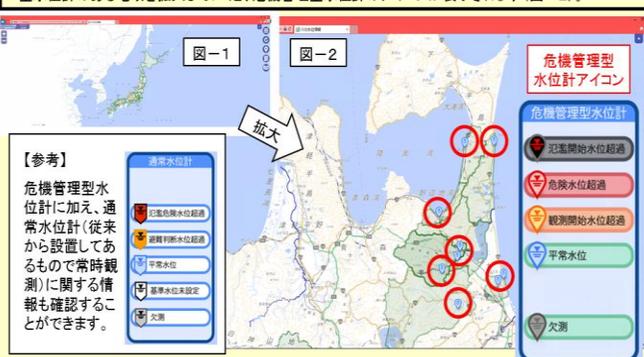


<危機管理型水位計設置河川>

河川名	市町村	設置場所
土橋川	八戸市	売市4号橋
小猿辺川	三戸町	下葛子平橋
相米川	田子町	落田橋
杉倉川	田子町	新田橋

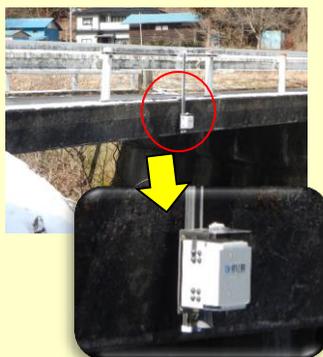
危機管理型水位計による観測水位の閲覧方法

- ① インターネットで「川の水位情報」のページを開くと、図-1の画面が表示され、ご覧になりたい危機管理型水位計のある地域を拡大していくと、危機管理型水位計のアイコンが表示されます(図-2)。



危機管理型水位計設置状況

相米川(落田橋)



○避難勧告の発令に着目した洪水タイムラインを策定【完了】

- ・避難勧告の発令に着目した洪水タイムラインを県管理河川35河川に策定完了うち、馬淵川流域は4河川に策定

河川種類	河川名(馬淵川流域)
洪水予報	馬淵川(中流)
水位周知	浅水川・熊原川・種子川

○想定最大規模降雨による浸水想定区域等の作成・公表【継続】

- ・馬淵川(中流)、浅水川、熊原川、種子川において浸水想定区域図を公表

浸水想定区域図



○重要水防箇所の合同巡視【継続】

- ・水防団、水防管理団体(市町村)及び河川管理者(県)等による河川の合同巡視を継続実施
- ・平成30年度は馬淵川中流(南部町)で実施

合同巡視実施状況



○緊急排水計画の策定【着手】

- ・氾濫発生時における氾濫水の排水による浸水継続時間短縮を図るため、緊急排水計画の策定に着手

国土交通省ポンプ車



○ホットラインの運用【継続】

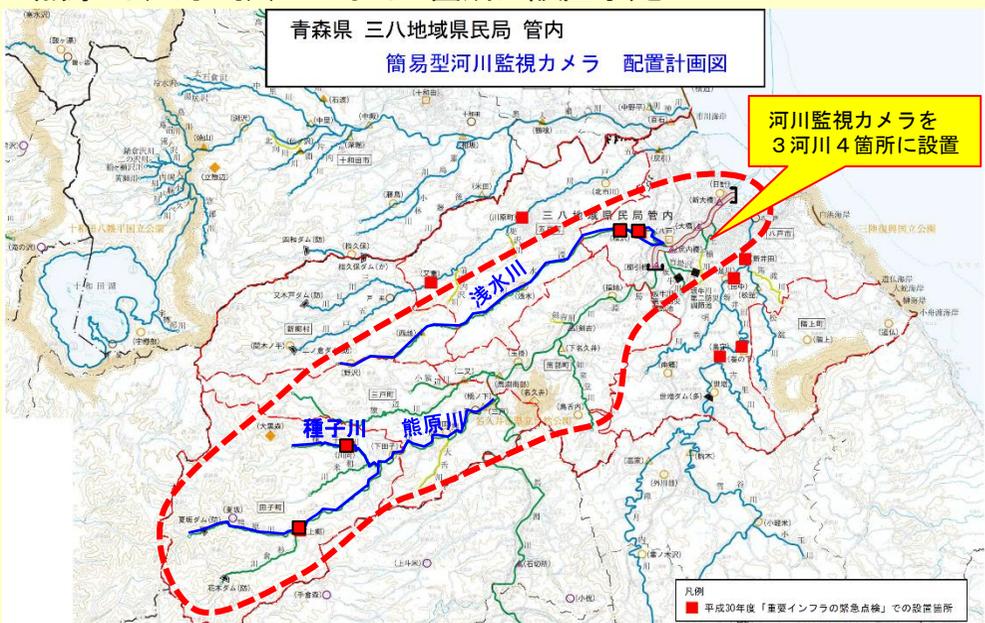
- ・河川管理者(県)から市長村長へ直接、河川水位の状況等を的確かつ確実に提供する体制を構築(H28.12月構築、H29~運用)
- ・平成30年5月の豪雨では、馬淵川中流部(剣吉)において避難判断水位を超過。このため、南部町長へホットラインを実施
- ・平成30年8月の豪雨では、熊原川において避難判断水位を超過。このため、三戸町長へホットラインを実施し、避難勧告が発令された

馬淵川大規模水害に備えた減災対策協議会 青森県河川砂防課 今後の取組予定

【令和元年度の主な実施内容】

○簡易型河川監視用カメラの設置【着手】

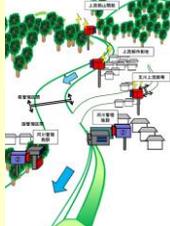
- ・住民避難や水防活動に資する基盤整備として、簡易型河川監視用カメラを県管理河川65箇所に設置
うち、馬淵川流域においては浅水川(八戸市)及び種子川、熊原川(田子町)、3河川4箇所に設置予定



河川監視カメラ設置箇所

河川名	市町村	設置場所
浅水川	八戸市	内矢沢水位観測所
浅水川	八戸市	桜沢水位観測所
種子川	田子町	川向水位観測所
熊原川	田子町	上郷水位観測所

(参考)イメージ 簡易型河川監視用カメラ



○緊急排水計画の策定【継続】

- ・令和元年度は、民間ポンプ保有状況を踏まえ、災害時協定に基づくポンプ等排水機材の緊急配備を検討予定

民間所有ポンプ



○重要水防箇所の合同巡視【継続】

- ・水防団、水防管理団体(市町村)及び河川管理者(県)等による河川の合同巡視を継続実施
- ・令和元年度は、五戸川(五戸町)を対象に実施予定

○防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策【着手】

- ・馬淵川、浅水川等8河川において河道掘削・雑木伐採を実施

○馬淵川河川改修事業の実施【継続】

- ・南部町門前地区、駅前地区及び、支川熊原川において河川改修事業を継続実施

馬淵川 門前地区

H30実施状況：護岸・パラペット



熊原川 橋ノ下地区

H30実施状況：排水樋門・築堤



防災危機管理課 平成30年度主な実施内容及び今後の取組予定

【平成30年度の主な実施内容】

○防災教育や防災知識の普及

- ・「青森県防災ハンドブック」の全世帯（約56万）配布による防災意識の普及啓発



- ・青森市、中泊町などで防災全般に関する出前講座を計12回開催（357人聴講）



- ・自主防災組織未結成の町内会役員を対象とした体験研修会を計12回開催（496人聴講）
- ・防災体制の強化と地域住民の防災意識の高揚を図るため、平川市において青森県総合防災訓練を実施（参加者約3,500人）

【令和元年度の主な実施内容】

○防災教育や防災知識の普及

- ・人口減少に応じて対応できる地域防災体制を構築するため、次代を担う子どもたちを対象とした防災教育活動支援ツールの検討を行うとともに、教育関係者やPTA等地域住民を対象とした啓発活動を実施
- ・昨年度に引き続き、出前講座や自主防災体験研修会を開催
- ・青森県総合防災訓練は8月27日に三沢市で開催

○市町村が実施する訓練の支援等

- ・7月26日に深浦町で河川の氾濫や土砂災害を想定した深浦町災害対策本部図上訓練を実施予定

○市町村に対する避難対策等への助言・指導

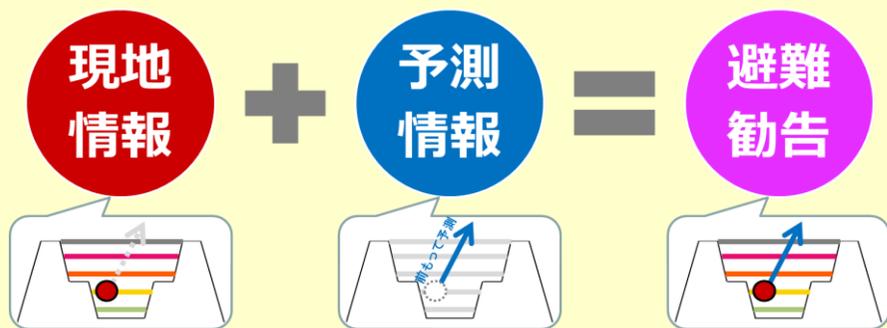
- ・避難勧告等の発令基準作成や避難対策等への助言・指導
- ・情報伝達手段の強化などの避難対策について市町村担当課長会議や地域懇談会において、助言・指導を行う

青森地方気象台 平成30年度主な実施内容及び今後の取組予定

【平成30年度の主な実施内容】

平成29年度から開始した危険度分布情報を、市町村の防災担当者や住民が、現地情報と合わせることで、避難勧告や避難開始を判断できるように周知・啓発を実施。

市町村長の避難勧告
住民の主体的避難



色が持つ意味	説明	内閣府のガイドラインの発令基準に対応する避難情報
極めて危険 すでに基準Ⅲに到達	流域雨量指数の実況値が過去の重大な洪水発生時に匹敵する値にすでに到達。重大な洪水害がすでに発生しているおそれが高い極めて危険な状況。	
非常に危険 3時間先までに基準Ⅲに到達すると予測	水位周知河川・その他河川がさらに増水し、今後氾濫し、重大な洪水害が発生するおそれが高い。水位が氾濫注意水位等を越えている場合には速やかに避難を開始する。	氾濫注意水位等を越えていれば 避難勧告
警戒(警報級) 3時間先までに基準Ⅱに到達すると予測	水位が水防団待機水位等を越えている場合には避難の準備をして早めの避難を心がける。高齢者等は速やかに避難を開始する。	水防団待機水位等を越えていれば 避難準備 ・高齢者等避難開始
注意(注意報級) 3時間先までに基準Ⅰに到達すると予測	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。	
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	

【令和元年度の主な取組み予定】

地域防災支援を強化します。

平時から緊急時まで、常に地域に寄り添います。

平時

- 市町村訪問等の「顔の見える関係」の強化
- 災害リスクや気象情報利活用に関する研修・訓練への協力
⇒ 訓練シナリオ作成、ワークショップ、勉強会等
- 地域防災計画や避難勧告マニュアル修正への協力
- 日頃からの予報官コメントやメール等による解説
- 協議会等との日頃からの連携

緊急時

- 台風等説明会
- 予報官コメント、ホットライン
⇒ 利用者の立場に立った、情報提供
- JETTの派遣
⇒ 気象台職員を迅速に派遣

馬淵川大規模水害に備えた減災対策協議会 青森河川国道事務所 平成30年度主な実施内容

【平成30年度の主な実施内容】

●防災教育の支援

八戸市立明治小学校 事務所職員による出前講座形式
(11/2、11/8、11/20)



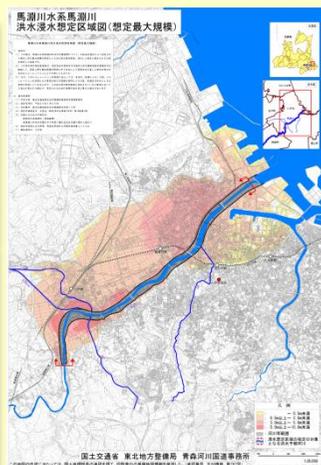
【洪水その時あわてないために】

洪水を防ぐために、国土交通省では、さまざまなことを行っています。



洪水がおきたらどうすればいいの？！（その5）

・川に流されてしまうおそれがあるような時のことを考えると、一人ではなく家族や知り合いの人といっしょにひなんしましょう。
・荷物がたくさんあると、にげおくれることがあるかもしれません。荷物は少なめにし、服そつは動きやすく、目立つ色のものにしましょう。



洪水浸水想定区域図の説明

●洪水ハザードマップの周知および意見交換会

開催日時：平成30年9月10日（月）13:30～16:30
場所：東青地域県民局 地域整備部 2階大会議室

開催状況



●「洪水に対しリスクが高い区間」の共同点検

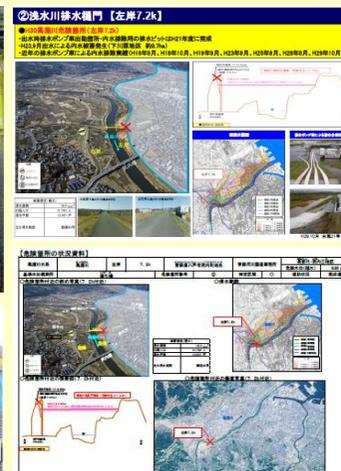
水防団や地域住民、防災エキスパート及び行政機関が参加し合同巡視を実施。（7/4）



リスクが高い区間の現地説明



地域住民の方々 防災エキスパート 水防団の方々 担当者による説明



●関係機関が連携した水防訓練の実施

各関係機関及び消防団員等が防災エキスパートから指導を受けロープワーク及び水防工法の訓練を実施。（6/24）



シート張り工

月の輪工

ロープワーク（縄結び）

馬淵川大規模水害に備えた減災対策協議会 青森河川国道事務所 今後の取組予定

【令和元年度の主な取組み予定】

●要配慮者利用施設の避難確保計画 作成の支援

洪水ハザードマップ区域内にある要配慮者利用施設管理者に対し、講習会を実施予定。

五所川原市での実施状況



●防災教育の支援

小学生を対象として防災教育を実施予定。

【洪水その時あわてないために】



●緊急排水計画（案）の作成

排水機場・樋門・水門等の情報共有、浸水区域内の自然勾配を踏まえた排水の検討を行い、大規模水害を想定した緊急排水計画（案）の作成を完了予定。

●「洪水に対しリスクが高い区間」の 共同点検

水防団や地域住民、防災エキスパート及び行政機関が参加し合同巡視を実施予定。



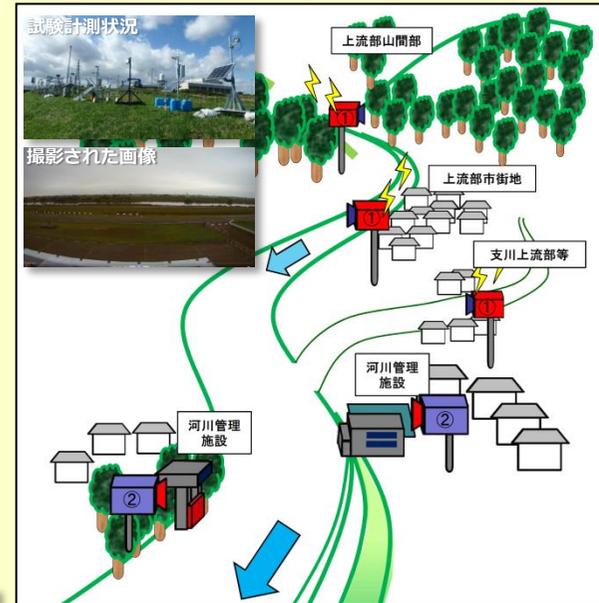
●関係機関が連携した水防訓練の実施

各関係機関及び消防団員等合同で水防工法訓練を実施予定。



●簡易型河川監視カメラの設置

簡易型河川カメラを設置予定。身近な画情情報の提供で住民に切迫感を伝えます。



①無線式簡易型河川監視カメラ

屋外に容易に設置可能でかつ、電源・通信ともにワイヤレスで運用可能なカメラ

②有線式簡易型河川監視カメラ

屋外に容易に設置可能でかつ、初期導入コストが安価なカメラ

**●緊急行動計画の改定に伴う、
馬淵川の減災に係る取組方針の
変更および発表**